

将来への提言

IC2002 実行委員長 三浦 千鶴

1 はじめに

学生のみなさんに提言としていうべきことは、過去のインカレ報告書の提言と大して変わりません丁寧に書かれていますので、是非もう一度読んでみてください。

愛知インカレ実行委員会は、短期間・少人数・実行委員未経験者が委員長という三重苦を抱えた実行委員会でした。それでも出来たという面もありますし、やはり無理があったという面も多々あります。そういう経験を、これからインカレに関わる人たちに情報提供していくことが責任の一つだと思っています。細かなことはここには書ききれませんが、何か質問などありましたら、いつでも声をかけてください。

2 地図作成について

今回実行委員会は地図作成には関わっていません。2005年世界選手権準備委員会から地図を買い取るという形でした。私は、開催まで1年を切った時期に「10月には試走のできる地図ができるので」という話を聞いて実行委員長を引き受けたのですが、実際まともな試走ができたのは1月の終わりごろでした。試走以外に地図なしで進められる準備もあるのですが、やはり実際のコースを最優先にして他のことが決まってしまうので、具体的なタイムテーブル、レイアウトなどはコースが確定しないとイメージできませんでした。1月の末に試走をしたときには、地図の精度もよく、地元涉外もうまくいったので、コースプランが比較的スムーズに進行できたのはよかったです。その時期はちょうどプログラム原稿の校了時期と重なってしまうので、いっぺんにたくさんのことを検討・決定しなくてはならず、膨大なメールが飛び交いました。メール環境はそれぞれ違うので、大迷惑を被った人もいると思います。仕事や学業が最優先なので、ゆとりある日程を組むことが重要だと思います。完成した地図（コース図）の納期は2週間前を死守したので、直前の点検・準備にはゆとりがもてました。また、地図が遅れていることについて、実行委員会内では文句を言っていればいだけだったので、その点では気が楽でした。

大会運営と地図作成の責任者を明確に分けるのはいい方法だと思います。もっと明確にする必要も感じましたが。また、ご尽力いただいた準備委員会地図作成チームのみなさんにはあらためて感謝いたします。

3 ボランティア募集

大会に参加しながら手を貸してくれる人を募集しました。併設大会参加者はクラブ単位で、学生は個人で、というのが募集前の見当だったのですが、やってみたら結果は逆でした。大学単位での仕事の割り振りは行わずに、学生ボランティアの募集と称して、何かやってみようと手を挙げてくれる人に期待したのですが、ほとんどが大学単位のまとまった人数で応えてくれました。皆やる気ある態度で、とても助かりました。手伝ってもらうには、

手伝ってもらふなりの準備や説明が必要で、それ自体が結構面倒だったりするのですが、実行委員と学生の交流の機会にもなるので、今後も工夫をしていって欲しいと思います。インカレに限った話ではなく、「オリエンテーリング大会への参加＝競技＋観戦＋運営」という意識が持てるとういと思います。

(参加費がどんどん上がってもいい、というのなら話は別ですが。)

4. エントリーから成績確定まで

エントリー・スタートリスト・EMIT 設定・ゴール・計算センターを、1つのまとまったパートとして考えました。ここに情報を集約し、ここから発信することで、伝達の遅れやズレを減らしていけます。Web 申込も実施しました。サーバーやホームページも活用し、エントリー状況などの情報を関係者で共有できるようにしました。まだまだ活用し切れていない部分もありますが、改良を重ねていく価値があると思います。ただし、電子化は入力等の作業量を激減させますが、最後は人の手作業や記憶に頼ることになります。金銭に関わることもあり、事務的な作業は想像するよりも多いのです。作業量の削減は例外処理（遅れ、キャンセル、ペナ、違反など）を減らしていくことが有効です。また、参加費徴収を日本旅行へ委託する方法もあると思います。

5. 最後に

インカレは継続して開催していくという視点で運営していく必要があります。学生や実行委員会は毎年入れ替わって行きますが、対外的にはインカレはずっとインカレ、日本学連はずっと日本学連です。引継ぎを分かりやすくして、外側からインカレを支えてくださる方々に対して、一貫した態度で対応ができるようにしていくべきだと思います。にわか立ち上がった実行委員会には気が回らないことがたくさんありました。インカレ改革が行われようとしています。社会人の大会と併設になった場合でも、インカレであり続けるには、そういった点が重要になると思います。

インカレの 2 週間後に全日本大会がありました。多くの社会人オリエントアにとっての目標大会です。実行委員も多数参加していました。インカレ運営が彼らの競技生活にどう影響を与えたかはわかりませんが、決定的なマイナス要素にはなっていなかったのではないかと勝手に思っています。しかし、今度の改革によって、目標とする大会と運営しなければいけない大会は重なります。いろんな人が関われるインカレ運営ですが、競技的能力は不可欠です。ちょっと心配です。どうしたらいいのでしょうか？インカレにありがとうと言いたいみなさんに考えて欲しいと思います。